

全星薬品工業とアジレントの対談

大阪を拠点とする医薬品開発・製造会社である全星薬品工業株式会社に、Agilent HPLC システムの使用についてお聞きしました。全星の品質信頼性管理部門の科学者である 内田 滋 氏が、その使用体験について語りました。

アジレント：御社のラボでは HPLC をどのように活用していますか？

内田 滋 氏:「自社製品と、国内外の受託製造製品の両方の品質管理に HPLC を用いています。

昨年、Agilent HPLC を初めて導入するまでは、Agilent HPLC の導入実績はなく、国内メーカー製の HPLC システムを多数運用していました。LC 以外では、Agilent GC 機器の使用経験がありました。」

アジレント：何らかの課題はありましたか？

内田 滋 氏：「海外からの受託製造製品の一部については、分析メソッドを Agilent HPLC システムで開発しました。グローバルビジネスにおいて、日本製の機器のみを所有していたことで、技術移転の際に課題が生じました。というのも、メソッドの互換性、機器の違い、溶媒や環境の条件など、多数の要因を検証するためにかなりの時間を要したからです。



アジレント：こうした課題に対して、アジレント製品からどのような解決策が得られたのでしょうか？

内田 滋 氏：「最初の製品を購入する前に、相見積もりを取りました。アジレントの見積もりは妥当なもので、当初の予想よりも手頃な価格でした。

今後、1 社のベンダーに依存するのではなく、競争環境を維持する方が、健全な調達プロセスの構築につながると考えています。長期的にはアジレント製品を購入していく計画なので、当社が導入する機器のかなりの割合を占めることになるでしょう。」

アジレント：現在、どのアジレントシステムを使用していますか？

Agilent
Trusted Answers

内田 滋 氏：「LC システムの導入前に、まず Agilent GC を導入しました。安定した運用と信頼できるサポートサービスにより、QC 部門内で信頼が構築され、LC 導入の決定にも良い影響がありました。

InfinityLab LC シリーズ 1260 III クォータナリポンプシステムを LabSolutions CS で制御しており、同じソフトウェア環境を維持できています。既存の HPLC の分離時間とリテンションタイムに合わせるために用いるインジェクタプログラムなどの機能も、問題なく動作します。

このシステムは Infinity III LC シリーズのリリース直後に購入したため、InfinityLab Assist、特にスマートパージなどの機能を活用できています。既存の機器と比べても遜色ありません。

他社製ソフトウェアで制御しても問題が起きないことを文書で確認できました。また、分析条件を変更せずに使い始めることができました。まだ十分に試せていない機能もありますが、これまでのところ非常に満足しています。」



アジレント：期待どおりの分析結果を得られていますか？

内田 滋 氏：「複数のメソッドを国内メーカーからアジレントへ、問題なく移管できました。特定の製品については、配管を変更しなくても、必要な分離基準を容易に満たすことができます。

より高いカラム温度が求められるアプリケーションなどの分析条件によっては、アジレントシステムで良好な分離結果が得られたケースもありました。これは、プレカラム熱交換器の設計によって効果的な熱交換が得られるためと考えています。

1 社のベンダーに依存していたときは、機器設計に起因する違いを理解することが困難でした。複数のプラットフォームを使用している現在では、リスクを効果的に低減できたと感じています。」

アジレント：アジレント製品を導入して、ラボにどのような利点がありましたか？

内田 滋 氏：受託製造事業の世界展開を続けていく中で、国際的に確かな実績を持つ機器を採用することには、非常に大きな意義があります。海外発の技術情報の中で、アジレントシステムが使用されていることが多く、安心して試験を進めることができます。

また、島津製作所の旧型のシステムでは実行できた一部の分析が、新モデルでは実行できないというケースがありましたが、アジレントシステムはこれらの問題を解決できました。例えば、一部の既存メソッドについては、装置更新時に後継機種の 2030 では同一条件下で分離度等の規格を満たしませんでしたが、アジレント LC システムはそのまま運用可能であることを確認できました。」

アジレント：Agilent LC システムの全体的な使用体験をどのように評価されますか？

内田 滋 氏：「アジレント機器のモジュールはすべて、前面からアクセスできるように設計されており、メンテナンスが非常に簡単であることに気づきました。現在利用している定期的なオンサイトサービスで、問題があればすぐに解決してもらえるため、大変助かっています。今後もこのサービスを続けてほしいと思います。

国内メーカーの機器は、標準的なプラスドライバーが必要なネジを使用していますが、アジレント機器はトルクスネジを使用して、ネジ山が潰れるリスクを低減しているため、製造品質の高さを強く実感しています。」

アジレント：この機器はご期待に添えましたか？

内田 滋 氏：「オペレータから大きな反発はなく、すでに標準操作手順（SOP）を作成して、ルーチン分析を開始しています。

また、コールセンターのサポートも非常に充実しています。 対応が迅速で、提供される情報量も他のベンダーよりはるかに多く、非常に助かっています。」

アジレント：運用やシステム管理の面でアジレントを選ぶメリットは何だとお考えですか？

内田 滋 氏：「アジレント機器の導入により、今後のグローバルビジネスや調達プロセスにおいて多数の利点を得られます。アジレントの販売代理店から提供される情報や提案も質が高く、いつも助かっています。

ワークショップやウェビナーは非常に有益です。アジレントには今後も、ユーザーにとって価値あるコンテンツを提供してほしいと思います。」

ホームページ
www.agilent.com/chem/jp

カストマコンタクトセンタ
0120-477-111
email_japan@agilent.com

本製品は一般的な実験用途での使用を想定しており、
医薬品医療機器等法に基づく登録を行っておりません。
本文書に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに
変更されることがあります。

DE-017108

アジレント・テクノロジー株式会社
© Agilent Technologies, Inc. 2026
Printed in Japan, August 20, 2026
5994-9410JAJP

Agilent
Trusted Answers